

2022年10月2日 世界聖餐日(聖霊降臨節第17主日)礼拝

メッセージ「愛する裏切り者」

水谷憲牧師

聖書 マルコによる福音書 14章10-21節

本日の聖書は、イエス・キリストがエルサレムへ入ってから、イスカリオテのユダの裏切りによっていよいよ逮捕される直前の^{すぎこし}過越の食事、いわゆる「最後の晩餐」の場面です。今日は特に、イエスを裏切って祭司長たちへ引き渡したユダのことを思いながら、この箇所を読んでいけたらと思っています。

^{すぎこし}過越の^{ほふ}食事を屠る日、弟子たちはイエスに^{すぎこし}過越の食事をする用意をどこでしたらいいか尋ねます。確かに、昼間のうちに小羊を屠って神殿にささげ、夕方になってそれを酵母抜きのパンと一緒に食べるわけですが、肉ばかりえんえんと食べ続けるわけでもなかろうし、味付けのソースもいるかもしれない、つけあわせの野菜も準備したほうがいいかもしれない、お酒も飲むだろうし、なにより食事をする部屋を確実に予約しておかないといけない。しかも、それが当日、今日の話なので、弟子たちとしてはドキドキものだったのではないのでしょうか。当日の今から準備を始めて、間に合うのか。いきなり今日、予約がとれるものなのか。現代の私たちでも、そこまでの行き当たりばったりの旅行はなかなかしないのではないのでしょうか。

しかし、そこはさすがにイエス様、抜かりはありませんでした。エルサレム入城の際に弟子たちを遣わして子ろばを手配されたように(マルコ 11章)、今回も弟子たちを使いに出します。「都に行くと、水がめを運んでいる男に出会うから、その人についていきなさい。」そんなざっくりとした指示でいいのかと不思議にも思いますが、この当時は水がめをもって歩くのは女性たちだったようで、男性は主に革袋を使っていたようなのです。ですから、水がめを持った男というのは、なかなかいない、目立つ存在だったのでしょう。そしてイエスが行こうとしている家では、男の召使が水がめで水を運ぶことをイエスは知っていたのだと思われます。だから、「その人についていきなさい」。その男についていった先の家の主人は、もうすでに席が整えられている部屋を見せてくれるはずだから、って最後の準備をしておきな

さい。イエスはそう弟子たちに指示されます。そして夕方になり、イエスがみんなと一緒に食事をしているとき、イエスは言われるんです。「はっきり言うておくが、あなたがたのうちの一人で、私と一緒に食事をしている者が、私を裏切ろうとしている」。「まさか私のことですか」と代わる代わる言い始めた弟子たちに、イエスはさらに言われます。「十二人のうちの一人で、わたしと一緒に鉢に食べ物を浸している者がそれだ。人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった」。

この衝撃的な箇所、特にこの「生まれなかった方が、その者のためによかった」という言葉が強烈過ぎて、こんなひどい言葉をイエス様が言われたとは信じたくない、生れなかった方がよかったなんて、この言葉を私たちはどう考えたらいいのか、世の中の多くの牧師さんも学者さんもなかなか苦しんでおられる様子です。というか、あまりこの言葉に触れられる方はおられない様子です。

今日は、あえてそこに触れていこうという試みです。世の中で「裏切り者と言えよ」というお題が出たとして、一番に出てくるのが「イスカリオテのユダ」ではないか、関ヶ原の戦いで敵軍に寝返った小早川秀秋も惜しいところかと思いますが、グローバルな知名度という点ではユダに軍配が上がりそうです。そんなユダ、イメージが悪すぎて、ヨーロッパのスイスやドイツなどでは子どもにつけてはならない名前に挙げられているそうです。まさに「ユダなんて、生まれたい方がいい」というわけです。そんなユダですが、彼はそれほど悪い奴だったのか。もちろん、どんな理由があれ、ユダなりの思いがあつての不本意な結果であつたにせよ、イエスを裏切って十字架に追いやつたのは重大な罪ではある。けれども、子どもに同じ名前をつけることを公に禁止されるほどにまで、彼は憎まれるべき存在だったのか。確かに、イスカリオテのユダが死んでから後もこれまで世界中で受けてきた呪いのようなまなざしを考えると、確かに生まれなかった方がユダのために良かったのかもしれない、と言ってしまいそうになります。

でもだめなのだ。仮にイエス様が「生まれなかった方が、その者のためによかった」と言っていたとしても、イエス様の言葉を私たちが軽々しくそのまま使つてはいけないのだ。あの「最後の晩餐」の場面でイエス様が言われたあの言葉と、現代

の私たちが薄っぺらい正義感を振りかざし、怒りにまかせて罪人に向けて言っ
てしまいがちなその言葉とは、決定的に文脈が違うはずなのではないか。私たちの
救い主、イエス・キリストは、人間のいのちを否定するような方ではないのだから。

世の中には、人間関係で悩む人が本当にたくさんおられます。仕事上の悩みや、
恋愛問題、金銭トラブルなど、いろいろ心配の種はあるものですが、今は便利な
世の中で、ちょっとパソコンやスマホで検索すると、そんな人たちの悩みに対して
様々な示唆を与えてくれるコラムや記事が、たくさん出てきます。ただ、先日私が
説教の準備の一環で「裏切り者」と検索してみたところ「うらぎりやすいタイプ
の特徴」って出てきてびっくりしました。「日頃から約束を守らない」「感情や欲望に
振り回されやすく、理性が弱い」「よく考えずに行動してしまう」「時々、連絡が
つ
かなくなることがある」「都合の悪い質問はスルーする」「言葉に心がこもって
いない」「性格に裏表がある」「情が薄い」「利己的な思考をもっている」「依存
気
質で、すぐに被害者意識をもつ」「気が弱い」・・・「このような人は、何か都合の
悪
いことが起こると、裏切る可能性があるので、気をつけた方がいいでしょう」・・・
でも、こんなん誰でも当てはまるやん。誰でもこんな時あるやん。

神様を裏切ったのは、イスカリオテのユダだけではなかった。最後までお供します
と涙ながらに言い張ったペトロをはじめ、弟子たちみんな、イエスが逮捕されると
一斉に散り散りになって逃げ出した。ペトロはやっぱり心配になって大祭司の家ま
で忍び込んで様子を見に行っただけのもの、ばれそうになって呪いの言葉さえ口にし
ながら否定した。みんなイエスを裏切って見捨ててしまったんです。「裏切りやす
い
タイプ」に当てはまる私たちに彼らを責める資格があるだろうか。ユダを責める資
格はあるだろうか。聖書のギリシア語では「裏切る」と「引き渡す」は同じ言葉だ
そ
うです。わたしたちは神様との約束を守れているのか。神様への祈りの言葉に、心
がこもっていない時はないか。神様よりも自分の都合を優先させてしまっ
てはい
ないか。それはどれも裏切りであり、自分には必要ないといって神様を敵へ引き渡
す
行為です。それがいけないといっているわけではない。それは誰でも、私でも神
様
に対してしてしまう裏切りです。そういう私たちには、弟子たちやイスカリオテ
のユ
ダを責める資格などなく、共に頭を垂れて神様に裏切りのゆるしを乞うことしかで

きないことを思います。

しかし、イエス様は自分を直接敵へ引き渡したイスカリオテのユダも含めて、そういう私たちの罪を赦して下さっています。「生まれなかった方が、その者のためによかった」。きっとイエス様は、自分のことを心から愛しているのにもかかわらず、のちに裏切らざるを得なくなる一人一人、の顔を見渡しながら、出会ってしまったがゆえの悲しみをそんなふうに表示されたのではなかったでしょうか。もし私かあなたがこの世に生まれていなければ、あるいは、生まれる時期がもう少し違っていれば・・・もし私たちが出会っていなければ・・・あなたたちはみな、平凡ながらもそれなりに幸せな一生を送れたかもしれない。あなたたちが私と出会わなければ、みなが裏切りの苦しみを十字架として背負うこともなかったろうに。この生まれなかった方が～というイエス様の言葉は、そんなキリストの弟子たちに対する言いつくせない愛と悲しみがこもった、非常に切ない言葉だったように、私には思えるのです。

そしてキリストの弟子たちに対するその切ない言葉はそのまま、キリストから私たちへの言葉でもあります。私たちがこの世に生まれてイエス・キリストと出会ったがゆえにこれから背負ってゆく十字架もそれぞれきっとあるでしょうが、イエス様は私たちの十字架を背負ってゆくその苦しみに思いを寄せてくださっています。こんな私たちに対しても惜しみなく注がれるキリストの愛を思いながら私たちも、キリストに変わらずついて行けたらと思っています。